



Contents

| | |
|--|---|
| 特集1 第6回ホームカミングデイ報告 2 Report on the 6th Homecoming Day | 同窓会ニュース 8 NUAL News |
| 特集2 応援団再生への道 6 Bringing back the Nagoya University Cheerleaders | 大学ニュース 19 Nagoya University News |
| | 事務局からのお知らせ 20 From the NUAL Office |



第6回ホームカミングデイが、平成22年10月16日(土)に、「地域と大学で考える 人・生命(いのち)・未来」をテーマとして行われました。卒業生・修了生だけでなく、学生の保護者および地域住民のみならず、約3,000名にご参加いただきました。

Nagoya University held its 6th Homecoming Day on Saturday, October 16, 2010 on the theme of “Universities and Regions— Reflecting on People, Lives, and Futures.” The approximately 3000 participants included not only alumni, but also students’ families and local residents.

第6回ホームカミングデイ報告

Report on the 6th Homecoming Day

第6回ホームカミングデイが、平成22年10月16日（土）に、「地域と大学で考える 人・生命（いのち）・未来」をテーマとして行われました。私は、昨年度に引き続きディレクターとして、多くの方々の協力を得て全体をコーディネートしました。名古屋大学主催のホームカミングデイは他大学とは多少異なり、卒業生・修了生だけでなく、学生の保護者および地域住民も対象にしています。今年の参加者は、約3,000名でした。

今回は、名古屋大学全学同窓会の9つの海外支部から支部長などの代表に来ていただき、ホームカミングデイに参加していただきました。また、10年刻みの周年記念卒業生（卒業後50年までの10年毎の同窓生）に対して、濱口総長と豊田会長の連名で招待状を差しあげて、参加いただく企画を始めました。これを10年間続けると、全ての卒業生・修了生を直接招待することになります。

最も目玉になった行事は、豊田講堂で行われた「名古屋大学の集い」でした。その第1部は、男声合唱団 OB によるオープニングコンサートで始まり、濱口総長と豊田全学同窓会会長の挨拶の後、ホームカミングデイのディレクター兼全学同窓会代表幹事として、私から簡単にホームカミングデイの趣旨と全学同窓会の近況を報告しました。ここまでは、ある意味で全学同窓会の総会を兼ねていたと言えます。

この後で、名古屋大学が今年から創設した、国際交流貢献顕彰の授与式を行いました。全学同窓会韓国支部長の王さんとバングラデシュ支部長のイスラム・カーンさんが受賞され、総長から賞状を、また、豊田会長から豊田講堂をレーザーで内部に立体彫刻したクリスタルの副賞が授与されました。

その後、2009年ノーベル物理学賞を受賞された益川敏英特別教授から講演「現在社会と科学」をしていただきました。第1部の最後は、この益川先生と海外支部の代表者とのふれあいトークを行いました。時間が短く、また、一部の質疑は、国際交流協力推進本部等の教員の協力を得て英語で行ったため、かみ合わない部分もありましたが、大変好評でした。



名古屋大学全学同窓会代表幹事
伊藤 義人
昭和50年工学部卒、昭和52年修了
名古屋大学情報戦略室長

第2部は、高木綾子さんと吉田恭子さんによる、フルートとバイオリンのデュオコンサートを行いました。珍しい組み合わせですが、よいプログラムで、レベルの高いコンサートになりました。アンコールの「チャルダッシュ（モンティ）」と「主よ、人の



ホームカミングデイ・ガイドの表紙



男声合唱団 OB によるオープニング



国際交流貢献顕彰の受賞記念写真

望みの喜びよ（バハ）」は特に好評でした。豊田講堂の音響が、2008年の改修ですこぶるよくなったことを実感しました。

シンポジオンでは、午前中は杉山愛さんを迎えて、特別講演会を行いました。杉山愛さんには、午後に、テニスコートで親子ふれあいテニス教室も開いてもらいました。シンポジオンでの午後の講演は、近藤孝男教授、安藤雄一准教授および松尾清一副総長・病院長の3つの講演の後に、鳥越俊太郎氏を迎えて、患者さんと医師とのかかわりなどを中心としたトークセッションが行なわれました。

特別企画の篠田正浩映画監督を迎えた特別講演会は、IB電子情報館で行われました。それ以外にも昨年と同じように各種の講演会、スーパーコンピュータや超高压電子顕微鏡などの施設公開、グランパスコーチによるサッカー教室なども行われました。また、附属図書館の本のリユース市や農学部による農産物販売は、昨年と同様に多くの参加者を集めていました。

生命農学研究科の山本進一教授の協力で昨年度から始めた「名大キャンパス雑木林の生物多様性を観察しよう」と、今回から保体センターの島岡清名誉教授の協力で始めた名大ウォーキングツアーも多くの集客をし、好評でした。また、名古屋大学理系女子コミュニティあかりんご隊による「化学実験を体験しよう」は、子供たちに大変好評でした。

各部局行事として、保護者等対象行事や部局同窓会主催の講演会や総会が行われました。保健学科では、大幸キャンパスで、講演会と市民健康相談を実施し、これも大変好評だったそうです。

なお、ホームカミングデイに合わせて招待した全学同窓会海外支部の代表者の歓迎会を、前日の15日（金）18：30から、レストラン花の木で行いました。豊田会長にも来ていただき、総長や理事などの方々もご参加いただき、和やかで楽しい歓迎会を行いました。支部の代表の方々あいさつは、大変すばらしいもので、日本人参加者が皆感心していました。

次回のホームカミングデイは、平成23年10月15日（土）に予定されており、2001年3月に卒業・修了された同窓生を始め、それ以前の10年ごとの同窓生をご招待します。もちろん、それ以外の卒業生も大歓迎ですのでふるってご参加ください。



益川特別教授の講演



高木綾子さんと吉田恭子さんのデュオコンサート



海外支部歓迎会の記念写真



附属図書館本のリユース市

益川特別教授と活躍する全学同窓会海外支部の方々とのふれあいトーク A Talk with NUAL Overseas Branches Representatives and Prof. Maskawa



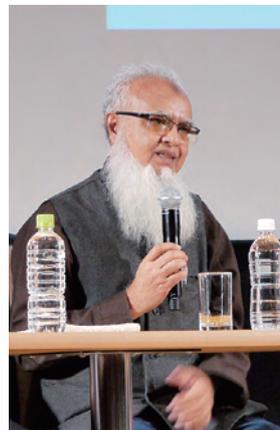
モンゴル支部
アルタンツヤ
ジクジドスーレン さん



ベトナム支部
グエン ティ
ホン ハイ さん



タイ国支部
アピナン
スプラサート さん



バングラデシュ支部
モハメッド サイドゥル
イスラム カーン さん



名古屋大学特別教授
益川 敏英 教授



司会：山崎聡子さん
(東海ラジオアナウンサー／情報文化学部卒業)

益川先生の講演会「現代社会と科学」に引き続き、名古屋大学全学同窓会海外支部の方々とのふれあいトークを開催しました。全学同窓会は現在、海外に9支部を展開しています。益川特別教授を中心に、海外で活躍されている方々からみる、名古屋大学の姿と若い世代への期待を語っていただきました。その模様を一部抜粋してお届けします。

世界に展開する名古屋大学

山崎さん： 全学同窓会海外支部の皆さんにお集まりいただきまして、感謝致します。あらためて名古屋大学全学同窓会の海外支部の設置されている地域を眺めてみますと、ほぼアジア全域を網羅しているように見えます。さらに同窓生は世界各地にいるわけですが、このような展開を図る名古屋大学をどのようにお考えになりますか？

益川先生： すごいですね。私は戦争が終わり、社会が落ち着きを取り戻したころの1962年に大学を卒業しました。だれでも勉強が好きであればできるという時代でした。今は、それが世界に広がったという実感です。

山崎さん： 世界で活躍する皆さんと一同に会することで改めてネットワークの広がりを実感することができます。韓国にも多くの同窓生がいらっしゃいます。韓国からはどのような実感をお持ちでしょうか？

ワンさん： 現在、韓国支部には60名の会員がいます。みな

名古屋大学の卒業生として誇りを持って、各分野で活躍しています。ドラゴンズがソウルに来たときには、同窓生で集まってドラゴンズを応援しました。

これからの名古屋大学生の姿

山崎さん： 日本の大学生は海外に行かないという報道があります。このような現状をどのようにお考えになりますか？

カーンさん： 私は昭和51から55年まで日本で土木・工学を学びましたが、これ以降、名古屋大学をはじめとした日本の大学とのつながりを保っています。バングラデシュとも交流があります。私は日本の大学生に、4年間の学生生活のうち1年間は海外で生活することをお勧めします。現地の人たちと生活を共にすることで考え方を深く理解し、意見交換を通して問題点を見つけ、解決へ導くことはとても良い経験になります。やりたいことは若い時にやらなければいけません。



韓国支部
ワン ソンウ さん



上海支部
ヤン リー さん



北京支部
パン ウェイ さん



カンボジア支部
コン ポリヤック さん



ウズベキスタン支部
イブラギモフ ノディル さん

益川先生： 南部先生は教授職でありながらも35歳でアメリカへ渡られました。食べていけないからではなく、新しい刺激や知見を求めてアグレッシブに海外へ出ていかれました。なぜ今の若者にそういった冒険心がないかという、今の日本は「適当に豊か」であるからであると思います。今の日本では、少し我慢すれば食べていきます。この「適当な豊かさ」が海外へ渡る大きな動機づけを曖昧にし、冒険する心を奪ってしまったのだと思います。

ヤンさん： 私は最初はアメリカに行きたかったのですが、保証人になってくれる先生がいたことと、すぐそばにトヨタ自動車があることがアピールポイントになり、名古屋大学に行くことに決めました。しかし日本に来るためには、「アイウエオ」から勉強する必要があります。日本で働くには日本語能力は欠かせません。そこで私は1日10時間、日本語の勉強を続けました。このような私の経験からすると今の日本人学生にはハンガリーが必要だと思います。外国語の能力に関してもそうです。発音が気になってしゃべれないという学生がよくいますが、実はネイティブの人は頭の中で矯正して理解してくれるもので、思い切って話すことが大切です。

ノーベル賞について

アルタンツォーヤさん： 今年のノーベル賞のニュースは大変喜ばしく思います。これまでのノーベル賞受賞者のうち4人が名古屋大学関係者であることはどのように感じておられますか？

益川先生： 我々の時代は、先生たちは若く、学生たちにも自分達がこれからの科学界を背負っていくという気概がありました。またそのような名古屋大学が時代にマッチしていたと思います。

ノディルさん： 化学・物理以外のノーベル賞受賞はどうでしょう？

益川先生： 我々の時代は日本は新しい経済の仕組みに対応する体制が整っていませんでした。でもこれからは違うと思います。

名古屋大学への期待

益川先生： 今の名古屋大学は壮年期であると思います。どっしりとした存在感のある名古屋大学を目指して在校生・教員・同窓生は努力する必要があります。

アピナンさん： 名古屋といえばトヨタ自動車です。タイではトヨタ車を見るたびに名古屋大学を思い出します。また、名古屋で培った友人関係も宝物です。また名古屋で学べる機会がくることを楽しみにしています。

グエンさん： 名古屋大学での受けた教育がとても懐かしく思います。オンライン配信などで講義を受ける機会をください。

パンさん： ぜひ今日のようなお話を清華大学で聞かせてください。

コンさん： 名古屋大学との交流がより盛んに進むことを期待しております。皆様のご活躍をお祈りしております。

応援団再生への道

Bringing back the Nagoya University Cheerleaders



小田拓史

1984年工学部卒業 2010年6月まで株式会社リクルートに勤務。人材総合サービス、企業PRに携わる。名古屋大学応援団 団士会会長（単年度持ち回り制、2011年1月末時点）

名大応援団の再生について

～応援団は、名大が元気かどうかのバロメーター～

皆さんは、「応援団」と聞いてどんなイメージをお持ちですか？硬派。学生服。閉鎖的。チアリーダー。サッカーのサポーター。よくわからない…などなど多様でしょう。「名大応援団」と聞けば尚更。また、世代によって大きく異なるのではないのでしょうか。今回、その窮状と再生に向けての兆しをお伝えします。

半世紀の歴史。現在は現役団員1名。

(2011年1月末時点)

全国七大学総合体育大会（七大大）の記念すべき第1回が北大で開かれた、1962年の10月。総合6位という成績不振と応援団のある北大、東大、京大への羨望から、各クラブ有志が集い、名大を盛り上げるべく応援団は設立されました。以来、リーダー、吹奏、そしてチアリーダーと体制を充実させ、一時は60名の大所帯を誇ったこともあります。しかしながら、企業30年説のごとく、そこをピークにここ数年団員獲得に苦戦を強いられています。大きな組織であれもこれも取り組んだ事業拡大期。その後、実績や伝統という見えない重圧の中、後継者の採用と育成に失敗。少人数で一人何役もこなし、応援団のタスキを繋いでくれた諸氏には頭が下がります。今や100名近い部員を有する東大応援部にも存続の危機があったと聞きます。直近では、九大、東北大各応援団で見事な再生が図られています。本来の目的を見失い、組織の存続が主目的となっていなかったか。絶滅危惧種「朱鷺」を扱うが如く、腫れ物に触る状態でもいけません。他大学に出来て名大応援団に再生が出来ないはずはないのです。

応援団の再生をどう定義するか？

「我々は必ず名大生諸君の中に居らねばならない。全学友と離れた応援団などあり得ない。名大生諸君が、競技の応援に行ってくれるようになった時、我々応援団は自然崩壊するだろうし、我々としても大変喜ばしいことである。」これは、草創期に団誌「雄叫び」の創刊号に書かれた文章です。体育会各クラブの戦績や学生の雰囲気を押昇するに、まだまだ、応援団が元気に存在して、名大を盛り上げていく必要があります。大学生が一部のエリート時代から、2人に1人の時代。また、価値観も多様化する中、単純に人数で昔を追うこ

団士会とは？

名古屋大学応援団のOB会。学士会になぞらえてネーミング。応援団を卒団したメンバー300名で構成されます。会員同士の交流、現役学生のサポートを行っています。



1964年創刊の団誌「雄叫び」。大変だった広告取りも良い思い出。40年間にわたり発行。



名大祭の目玉企画だった、ファイヤーストームも運営していた。



第49回名大主管の七大大開会式。豊田講堂に鳴り響く、学生歌「若き我等」の斉唱。

とは難しいでしょう。ここは、量ではなく「学生と調和していか
に影響力を持つか!?!」という質で勝負したいと思います。くれ
ぐれも応援団の独り善がりにならないように。

孤軍奮闘する西田君の夢は、「(工学部で)しっかり研究し
たい。応援団で成長したい。周りを巻き込んで思い切りやりた
い。」とのこと。一生懸命に取り組む姿を見て、彼の応援団
が生まれ、周りもサポートを惜しまないことでしょう。

再生のキッカケは、コラボレーションと女性の力!?

2010年夏、名大主管の七大戦開会式。式典の締めくくりに
各クラブ有志、七大戦実行委員、吹奏楽団、応援団 OBら
70人の協力で、学生歌「若き我等」斉唱とエールが感動的
に執り行われました。従来は主管大学の応援団が受け持つ
パート。現役団員1名では、どうすることもできません。実行委
員の声かけで短期間の練習ながら、「皆で作る上げる」とい
う前例の無い事をやり遂げた、エネルギーと柔軟性に可能性
を感じます。振り返れば応援団設立も各クラブ有志が集って
実現。原点に学ぶことは、“大”と言えるでしょう。この時、力
になっていただいた七大戦実行委員長、吹奏楽団団長は共
に女性。今では全国的に当たり前になった女性の応援団リー
ダーや団長。名大応援団もここ数年、何人も女性の団長を輩
出しています。草食系と揶揄される男性より女性の方がしっか
りしていて安心でき、後輩に慕われるのかもしれない。

窮すれば変ず、変ずれば通ず。

私感ですが、古いOBほど変わることに対し寛容で「失敗
を気にせずにやりなさい。」と後押ししてくれているような気がし
ます。今後に向けて、一つ目の課題は、「どんなことをしたい
のか?そのためにどんな人が欲しいのか?」を明確にわかり易
く事実とともに伝えること。何をやっているかわからない団体に
人は集まりません。幸い2010年は、七大戦主管、全日本大学
駅伝の男女応援、優勝に絡むアメフト応援など信頼残高を積
み上げる機会に恵まれました。多様な人に入ってもらう、その
人が出来ることから一つ一つ展開したいものです。二つ目の
課題は入団してからの指導体制。初心者、経験者それぞれ
に合ったコーチングが必要です。ただし、あくまでも主体は学
生。「彼らの成長の役に立っているか?名大の盛り上げにつな
がっているか?」を見極め、自立できるまで3年程度は周りの
サポートが必要になるかと思えます。実はサポートしている
と思っている我々OBが、学生達から勇気や感動を貰っている
のかもしれませんが…。

これをお読みいただいている皆さん。何かしら集う機会が
あれば、学生歌「若き我等」を是非ご唱和下さい。中々、味

のあるいい歌です。伝統校に見られる自発的に其処此処で
歌声が響き、頑張っているお互いを称え合う状態。その積み
上げが名大を必ずや盛り上げ、応援団再生にも繋がること
と思えます。最後に、「応援団再生」を本誌特集記事として取
り上げていただくとともに、支援事業として採択いただいた全
学同窓会に感謝いたします。また、本紙面をお借りして、関
係の皆様からの温かいご支援に感謝いたします。



七大学応援団・応援部合同演舞演奏会は、体育会常任委員、吹奏楽団、応援団
団士会(OB会)の協力で実現。



新しい仲間募集! 自らの成長と名大の盛り上げのために 名古屋大学応援団

全学同窓会のご支援で、新入生に配られる体育会誌「濃緑2011」の裏表紙に
「応援団の広告」を出稿。

応援団ホームページ <http://www2.jimu.nagoya-u.ac.jp/ohendan/>
団士会ホームページ <http://danshikai.sakura.ne.jp/index3.html>

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。今回は医学部を卒業され、元名古屋大学病院長で現在は大府市にある国立長寿医療研究センター総長として活躍されている、大島伸一さんと、大学院理学研究科博士課程を修了後、富士通研究所に就職され、現在は大学院生命農学研究科で教授として活躍されている竹中千里さんに登場していただきました。

“NUAL People in Action” features our alumni playing active roles in various fields. In this issue, we meet Shin'ichi Oshima, a graduate of the School of Medicine, formerly director of Nagoya University Hospital and currently president of the National Center for Geriatrics and Gerontology in Obu City, and Chisato Takenaka, who after receiving a PhD from the Graduate School of Science worked for Fujitsu Laboratories and is today a professor at the Graduate School of Bioagricultural Sciences.

大島 伸一さん



| | |
|------|------------------------------|
| 生年月日 | 昭和20年9月7日 (65歳) (旧満州生まれ) |
| 最終学歴 | 昭和45年 名古屋大学医学部 |
| 略 歴 | 昭和45年4月 社会保険中京病院臨床研修医 |
| | 昭和46年4月 社会保険中京病院医員 (泌尿器科) |
| | 昭和56年1月 社会保険中京病院部長 (泌尿器科) |
| | 平成4年4月 社会保険中京病院副院長 |
| | 平成9年1月 名古屋大学医学部泌尿器科学講座教授 |
| | 平成12年2月 名古屋大学医学部附属病院副院長 |
| | 平成14年11月 名古屋大学医学部附属病院病院長 |
| | 平成16年3月 国立長寿医療センター総長 |
| | 平成22年4月 独立行政法人国立長寿医療研究センター総長 |
| | 平成21年4月 国立大学法人名古屋大学名誉教授 |

所属学会 日本泌尿器科学会、日本臨床腎移植学会、日本 Endourology・ESWL 学会 (評議員)、日本移植学会 (評議員)、日本老年医学会 (理事)、日本内視鏡外科学会 (名誉会員) ほか

社会活動 厚生科学審議会臓器移植委員会 (専門委員)、社会保障審議会介護給付費分科会 (臨時委員)、介護福祉士国家試験委員会委員長、日本学術会議 (連携会員)、(財)長寿科学振興財団 (理事)、(社)日本臓器移植ネットワーク (常任理事)、あい健康長寿産業クラスター推進協議会 (会長)、愛知県科学技術会議委員、(財)愛知腎臓財団 (副会長) ほか

2004年3月1日に、第6番目のナショナルセンター (国立高度専門医療センター)として国立長寿医療センター (当時)が設立されたのを機に赴任をした。もともとが泌尿器科医で、腎移植医療などの先端医療に取り組んできたので、長寿医療センターへという話があった時には間違いではないかと思った。ちょうど病院長として、名大病院の独立行政法人改革に向かっている時期で、引き受けると決めた時には、敵前逃亡だという批判も受けたが、内心ではよく頑張ったから、これからは楽をしろというご褒美かもしれないと思ったりもしていた。

赴任して驚いたのは、設立したばかりの長寿医療センターに国家公務員の定員削減が同じように課せられてきたことである。二つ目に驚いたのは一年後に独立行政法

人化の話が持ち上がり、しばらくしたら2010年4月1日に移行という現実の話となったことだ。その後は、その準備に追われることになったが、まるで組織の改変のために赴任したかのようである。途中で政権交代があり、新しい体制の理事長として、私が指名されたのが、2010年の2月、理事体制が決まったのが3月も後半という慌ただしさであった。おかげで最後のお務めをできるだけ事無くと考えていた私の目論見は、砕け散った。

私は、当センターへ赴任してから、高齢化や高齢社会と真剣に向き合うことになったが、あらためて日本が直面している問題の大きさ、深刻さ、更に言えば世界が直面している事の重大さが中途半端なものではないことを思い知らされている。今、日本は世界一の高齢国である。



2010年6月 行幸啓

高齢化を端的に示す平均寿命83歳、高齢化率（65歳以上人口）23.1%、そして高齢化のスピード24年（高齢化率が7%から14%になるまでの期間）のいずれの指標においても世界一であるが、現実には、超高齢社会を迎え、次から次へと予測を越えた事態が噴出し、途方にくれているというのが正直なところではないか。私はこれまで日本の社会を動かしてきた20世紀型の価値観では、こうした事態に適切な処方箋を切ることが出来ないのではないかと危惧している。20世紀における価値とは、進歩、発展、開発という言葉で象徴される成長であり、それを支えてきた科学技術と個の解放である。

超高齢社会の現実とは、独居所帯、老老世帯、あるいは認知症、要介護高齢者の急増であり、予測を越えた現実とは、無縁死、介護虐待、介護心中、介護殺人、果ては行方不明といった地域社会のあり様である。

認知症は高齢社会の象徴と言ってもよいが、以前は痴呆と言われ、数が少なかったことや、共同生活が困難になると精神病という扱いをされて入院治療というのが一般的であり、深刻な社会問題ではなかった。現在は認知症となっても、住み慣れたところでその人がその人らしく、最後まで生きられるような社会にしよう、が合い言葉となっているが簡単なことではない。認知症への理解が欠落していると、認知症の方の異常な行動と正面衝突し、混乱が起きるだけではすまず、騒動や暴力にまで発展しかねない。

超高齢社会では、今までの社会の規律や秩序が通用しなくなるという覚悟と準備が必要であり、今はその転換期にある。医療の分野においても、20世紀は、科学技術の進歩・発展という正義のもとに、救命・延命を旗印に

徹底的に治すという医療を追求してきた。しかし、60歳、70歳代の人々の救命・延命・完全治癒と言っているうちは疑問も矛盾も少なかったが、80歳、90歳ましてや100歳を越えた人の根治治療や延命医療をどうするかに直面すると、話はそれほど単純ではない。

医療の世界では、病気を治すことを至上とした「科学モデル」から、病気や老化、そして障害を持った人の人生の支援を目標とした「生活モデル」への転換が進みつつある。今後はこのような大きな価値観の転換のなかで、科学技術の在り方や人の生き方が模索されてゆくことになるだろう。

高齢社会とは成熟の時代であり、20世紀型の価値観の転換が求められるのは、医療に限ったことではない。すでに69億という世界の人口規模は生産、消費、廃棄という地球の循環維持能力を越えているという説がある。加えて自然、エネルギー、資源、環境問題など地球規模での問題が深刻化しているという現実もある。我が国はどのような国、社会を目指せばよいのか、どのような街、コミュニティを築いてゆくのか、どんな技術が老いを豊かにしてくれるのか。技術は限りなく進歩するが、これからはどのような方向に向かってゆくのだろうか、それはどのような価値観によって決められてゆくのだろうか。そもそも超高齢社会における価値とは何なのだろうか。

私達は、これから80年、90年という人生を生きる時代に入る。どう生きてゆくのか、そのためには人生設計、社会設計が欠かせないが、その答えはどこにあるのか。このような大きな社会の転換期こそ、哲学や文学、社会学、文化人類学など人文学の出番ではないかと思うのである。



2010年10月 アジア・エイジング・フォーラム

竹中 千里さん



金沢大学大学院理学研究科修士課程、名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程修了後、富士通研究所に研究員として勤務。平成3年に名古屋大学農学部助手として採用される。現在は、名古屋大学大学院生命農学研究科教授。専門は、森林環境化学。環境変化の森林生態系への影響や、植物のもつ環境浄化機能に関する研究をおこなっている。

1980年代、名古屋大学東山キャンパスには、今や絶滅危惧種となった「本山原人」なる人種が徘徊していました。私もその中に混じり、大気水圏科学研究所（通称：水研、現在は、地球水循環研究センターに組織替え）の博士後期課程学生として日々の生活を送っていました。私は修士課程まで出身地である金沢の大学で学び、その修士課程の集中講義で名大水研大気水圏無機化学部門の北野康教授の「炭酸塩の地球化学」を聞き、その内容にいたく感動(?)して、北野研の学生となったという訳です。誰も学生時代を振り返った時、個性的な教員、ユニークな先輩・後輩の顔がまず思い浮かぶと思いますが、水研の当時の面々は教員も含め、かなりの個性派ぞろいでした。当時の水研のことと言えば、思い出すのは実験している光景ではなく、コンパの次の日に廊下のゴミ箱に頭を突っ込んだ状態で発見されたA君の姿、酒を飲むとなぜか踊りだすB先輩のことetc…今でも吹き出すような場面ばかりです。

水研は、物理、化学、生物、気象学、雪氷学をバックグラウンドとした研究者が、水に関わるサイエンスを展開していた研究所でした。当時は、同じ建物に「水」という共通キーワードをもつ異分野の研究者・学生がただ同居しているだけという意識だったのですが、今思い起こせば、まさに「学際的」な環境で学んでいたのだとつくづく思います。水研コロキウムという研究会が月に1回あり、さまざまな分野の研究に触れることができました。ま



水研でともに学んだ研究者と2009年1月に開催されたシンポジウム「Eco-climate dynamics in Eurasia/Monsoon Asia」の会場にて。左：杉本敦子氏（北海道大学大学院環境科学院教授）、中央：林田佐智子氏（奈良女子大学理学部教授）、右：本人

た、院生同士の交流も活発で、他の研究室がどんな実験をしているのか、どこでどんな調査をしているかなどといった情報が日ごろから飛び交っており、他分野の専門用語にも慣れ親しむことのできる環境でした。今でこそ、「学際的」という言葉がもてはやされ、学際的な研究者を育てるという目的で、異分野交流の場を設けている研究教育機関は多々見られますが、その当時では非常に稀有な研究所だったのではないかと思います。

水研での同僚・先輩・後輩で研究者の道に進んだ方は大勢いらっしゃいます。現在のその方々の研究スタンスを客観的にみますと、非常に幅広く、「学際的」な仕事



GCOE が主催した気候と環境に関する南京大学・名古屋大学ワークショップ

をされている研究者が多いのではないかと思います。私自身、「学際的」とまではいえませんが、地球化学出身で、現在、生命農学研究科の「森林環境資源学」という研究分野に所属しており、他の森林科学の研究者とは少し違う視点から研究教育を行っているという意識があります。水研時代の経験が、多少なりとも「学際的」なセンスの涵養に役立ったのではないかと考えています。

現在、私が関わっているグローバル COE「地球学から臨床・基礎環境学へ」（代表：安成哲三教授）では、学際的な広い視野で環境問題に対処できる人材を育てることを目的としています。その教育の一環で「オンサイトリサーチトレーニング（ORT）」という実地研修があり、

これはさまざまな分野の教員・大学院生が同じ現場を共有（診断）し、環境問題についてその解決策（治療法）を考えるというプログラムです。私は東南・南アジアグループを担当しており、昨年はラオスでユーカリ人工林の問題に取り組みました。現地調査が実質3日間という非常に短い時間でしたが、異分野の研究者・院生とともに調査するという経験は、参加した学生さん達に非常に有意義だったのではないかと考えています。自分自身の水研時代の経験からも、「学際的」な視点のトレーニングには、異分野の研究者と「場」を共有することがもっとも効果的ではないかと実感しつつ、GCOE プログラムに取り組む今日この頃です。



ラオス ORT の参加メンバー
2010年8月ラオス・ピエンチャンの空港にて

上海支部創設5周年記念総会開催される

平成22年10月21日（木）18時から、上海のホテル日航で、上海支部創設5周年記念総会が行われました。前日まで、上海交通大学で、AC21の総会が行われており、それに参加された濱口総長や名大関係者の方々も、これに参加いただきました。豊田会長の名代の太田全学同窓会顧問とトヨタ自動車(株)秘書部長の鶴飼正男氏にも名古屋から参加いただきました。全体で34名でした。中国と日本の微妙な関係の時期でしたが、全く問題なく開催でき、大変和やかなよい会になりました。

まず、上海支部幹事の洪庚明さんの司会で、上海支部幹事長の楊立さん（上海交通大学教授）から5周年の喜びと我々への歓迎の挨拶がありました。その後、来賓の紹介の後、順次挨拶がありました。まず、豊田章一郎会長の名代として名古屋大学全学同窓会顧問（前副会長）でトヨタ紡織(株)特別顧問（前デンソー(株)役員）の太田和宏氏が話されました。ついで、濱口総長の挨拶がありました。この時、記念品と名古屋大学写真集が、濱口総長から楊幹事長に渡されました。挨拶の中で、上海支部からの名古屋大学基金への寄付に対してのお礼も述べられました。

私が乾杯の音頭を取って、懇親会が始まりました。懇親会の間には、DVDによる名大の紹介や名古屋での思い出の写真のスライドショーも行われました。名古屋大学留学経験者の方々には、現在、重要なポストにつかれており、今回の会を大変喜んでくれました。最後に、上海支部幹事の楊弋涛さんによって閉会の挨拶があり、全員で記念写真を撮って、20時半過ぎに盛会の内に閉会しました。

（名古屋大学全学同窓会代表幹事 伊藤 義人）



楊幹事長の挨拶



太田顧問の挨拶



参加者の記念写真



濱口総長から楊幹事長へ記念品の贈呈

濱口総長北京支部を訪問

2011年1月21日（金）に、北京市清華大学近くの宴銘園において、北京名古屋大学同窓会（全学同窓会北京支部）と濱口総長との懇談会が開催されました。北京支部からは、潘偉支部長、馬智亮幹事長を中心に7名の出席があり、本学からは、佐分理事、横田理事、宇田川法学研究科教授が出席しました。濱口総長から最近の名古屋大学のトピックスなどの報告があり、昼食をとりながら和やかに懇談が行われました。



集合写真

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会では、全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生支援、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）への支援を目的として、年2回募集を行っております。平成21年度及び平成22年度（前期）採択事業から、5件の報告をいただきました。

NUAL commenced an open invitation type support project from 2004 for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association. The following are summaries of the activity selected in 2010.

名古屋大学チューターハンドブック～よりよいチューター活動のために～の作成

申請代表者：渡部留美
(国際交流協力推進本部 特任講師)

本事業では、名古屋大学の留学生のためのチューター制度がよりよく活用されるために「チューターハンドブック」を作成し、平成22年11月に発行しました。このハンドブックを用いることによって次のような効果が期待できると考えます。①チューターが留学生についての知識を高めることができる②チューターが留学生の学業面・生活面の支援方法について学ぶことができる③チューターが留学生が持つ文化背景や考え方を知ることで多文化理解を深め、多文化間コミュニケーション能力を身につけることができる④留学生が良質なチューター支援を受けることができる。

ハンドブックは、「1. 名古屋大学の留学生」、「2. チューター活動を行ううえで大切な姿勢」、「3. ケース」、「4. 関係組織連絡先」、「5. 参考図書」、「6. 用語集」、「多文化理

解力チェック」から成り、A5判で全24ページの冊子になっています。特に、「3. ケース」には15ページを割きました。これまでチューターや留学生から寄せられた質問や意見、学内の留学生担当教員からのアドバイスをもとに、事例(学習面、生活面、コミュニケーション面)を作成し、ケースとなった背景、解決に向けたヒントを掲載しました。

作成したハンドブックは、チューターだけでなく、留学生、国



チューターハンドブック

際交流関係教職員、外国人研究者などに広く配布し、日常業務、勉強会など様々な場面で活用してもらい、大学の国際化に貢献できることを視野に入れています。

今回、本ハンドブックを発行するにあたり、名古屋大学全学同窓会大学支援事業から全面的にご支援をいただいたことに心より感謝申し上げます。

重要文化財「馬場家住宅」 公開講座の実施

申請代表者：高橋 誠
(理事・事務局長)

平成22年9月4日（土）に、長野県松本市あがたの森文化会館（旧松本高等学校講堂）において重要文化財「馬場家住宅」公開講座を実施した。

馬場家住宅（長野県松本市）は、本棟造りの主屋のほか多数の歴史的建築物によって構成されており、馬場家は、江戸期は名主職にあり、現在まで全国的に見ても稀少な宗門別人別改帳を始め多数の古文書や民具等が伝えられており、学術的に極めて貴重で、現地において、日本中世史、歴史地理学、建築学等の学術的視点から馬場家及び馬場家住宅を巡る研究成果を、市民を対象に講義し、その顕彰と普及を図り、もって地域社会への貢献に資するために実施した。

当日は、本学 杉山寛行理事・副総長及び文化庁 大和智文化財担当参事官の挨拶をいただ



重要文化財「馬場家住宅」
公開講座の案内



「旧松本高等学校」校舎

き、信州大学 笹本副学長による特別講演と、本学の3人の教員の講義が行われ、松本市 伊藤光教育委員会教育長の閉会挨拶で閉じた。

会場となったのは、「あがたの森公園」内にある大正時代の代表的木造洋風建築として学校建築史上貴重な建造物である重要文化財「旧松本高等学校」校舎で、当日は晴天にも恵まれ、松本市教育委員会の皆様の広報による努力により、100名規模の参加者があった。

キタン-名古屋高等商業学校／名古屋大学経済学部-創立90周年記念展の開催

申請代表者：多和田 眞
(経済学研究科長)

平成22年11月3日（水）～平成22年12月18日（土）において、第20回名古屋大学博物館企画展として、「響け！創統の鐘—名高商から名大経済学部への90年—」を開催した。

11月3日午前10時より行われたオープニングセレモニーには、学内・キタン会関係者、同窓生など、約60名が参加し、期間中の来場者数は、3,227名であった。

展示内容は、名高商から名大経済学部へ受け継がれてきた研究成果を紹介するパネル展示、名高商を象徴する創統の鐘、校旗、旧桜山校舎の復元模型、屋根瓦の他、当時の授業風景の写真、名大経済学部として再出発するまでの経緯を示す新聞記事などであった。それぞれの物品に解説が加えられ、全体として、時代の変化に適応しつつ、名高商から名大経済学部に一貫して受け継がれてきた精神を感じ取れる構成になっており、同窓生が学生時代を懐かしむのみならず、現役の教員や学生が、自らの依って立つ基盤、今後の経済学部のあり方を考える上でも有意な展示となった。



オープニングセレモニー

名古屋大学柔道部「カナダ遠征」

申請代表者：久保亜季子
(柔道部 医学部保健学科4年)

名古屋大学全学同窓会による支援を受け、2010年9月26日(日)～10月2日(土)の日程で、名古屋大学柔道部師範引率の下、男子部員1名、女子部員3名の計5名でカナダへの遠征を実施し、これを無事終えることができました。期間中はケロウナ、カムループス、バンクーバーの3都市を回り、ケロウナ、カムループスでは柔道教室を開催して、現地での柔道の普及状況、日本の柔道との相異などを肌で体感し、柔道関係者と懇親を深めることができました。また、カムループスでの老人ホームの慰問や、バンクーバーで The University of British Columbia の視察を行い、そこで知り合った人々とも交流を深めることができました。そしてこの遠征に参加した部員にとっても、初めて海外で柔道を指導し、英語でのコミュニケーションに苦心し、カナダの雄大な自然に触れることで、自分の意見をもつことの重要性、相手に伝えようとする意志表示など、何事もまずは自分からアプローチしていかなければならないことを痛感するよい経験となりました。大きな事故や問題を起こすことなく遠征を終えることができたことに加え、遠征後にケロウナと姉妹都市である春日井市のまつりに参加し、再びケロウナの方々と交流できたことや、この遠征に関心を抱いた高校生が国外でも活動する名古屋大学への入学を希望するなどの反響があり、遠征後も人と人の繋がりが続いていることを実感することができました。以上のことより、海外での柔道のあり方を学ぶだけでなく、地域間の継続した友好関係が築けたことは今後の活動の一助となり、広く情報交換をしていくという当初の目標を達成することができました。名古屋大学内だけに留まらず、外に発信していくという遠征で得た積極性を発



ケロウナでの記念写真

揮し、以降の活動に活かしたいと思います。最後になりましたが、今回ご支援いただきました名古屋大学全学同窓会に厚く御礼申し上げます。

円頓寺映画祭2010の開催

申請代表者：島本昌典
(円頓寺映画祭実行委員会 国際言語文化研究科博士前期課程2年)

2010年11月12日(金)～13日(土)に、名古屋市西区の円頓寺商店街一帯において、映画祭を開催しました。今年は、初めて海外からもゲスト監督を招待するなど、昨年から確実に内容もスケールもパワーアップした映画祭にすることができました。合計30作品を6ヶ所の会場にて上映し、2日間の集客数は約600人でした。

主な上映作品は以下の通りです。

- 『忘却』…山形国際ドキュメンタリー映画祭2009最優秀作品
上映場所：名鉄イン名古屋駅前、喫茶まつば
- 『seeking otsuka』…名大生監督による、円頓寺ロケ作品
上映場所：名鉄イン名古屋駅前、ふれあい館(商店街内公民館)
- 『the after』…あいち国際女性映画祭上映作品(ゲストのチェヒョンヨン監督作品)
『お箸行進曲』…チュ監督が円頓寺商店街にてロケを行った作品
上映場所：名鉄イン名古屋駅前、レストラン庵ひろ(商店街内レストラン)



上映の様子

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、名古屋大学東京連絡所を拠点としております。名古屋大学東京連絡所は、神田神保町の一角に歴史的建造物として存在する、学士会館の地下1階にあります。昨年末より東京連絡所には、平日に職員が常駐しております（10:00～17:00）。

現在、関東支部の幹事会や、部局同窓会などの幹事会などを開催場所としてネットワークの整備をしております。大学が関東で開催する各種講演会やシンポジウムなどの情報発信に努めております。大学からの教職員が東京に出張した時の打ち合わせ場所や、諸会議前の待機場所としても、気軽に活用頂いております。全学同窓会の皆様には、近くにこれましたらお気軽にお立寄りください。また、学生の皆さんの就職活動で上京の時などもお気軽にお寄り下さい。

会議は、15人位の会議が可能です。ご利用の方は、下記あて、事前に日時をご連絡ご相談願います。他の会議と重ならないよう調整いたします。

■東京都千代田区神田錦町3-28 学士会館内
名大東京連絡所
TEL : 03-5283-2575
E-mail : tokyo.office@tokyo-office.sat.nagoya-u.ac.jp

学士会館の1階に、七大学展示コーナーがオープンし、名古屋大学の展示ブースにて、名大の「今」をパネル、モニター、資料等で紹介しています。



井口学士会会長と濱口総長とのテープカット（左）と名大展示ブース（右）

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部では、平成22年12月18日（土）、大阪弥生会館において第6回総会を開催しました。当日は約60人が出席し、会場には、名古屋大学創立70周年記念行事の際に、博物館において展示された名古屋大学の歴史を示すパネルの一部が展示されました。

総会では、寛関西支部長の開会挨拶のあと、伊藤全学同窓会代表幹事から、ウズベキスタン支部が設立されたこと、また、昨年10月に開催されたホームカミングデイの様子やその際に海外支部の代表者を招へいし交流を深めたこと、韓国及びバングラデシュの支部長が「名古屋大学国際交流貢献顕彰制度」初の受賞者として表彰されたことなどについて報告がありました。

次いで、濱口総長から、「名古屋大学から Nagoya University へ」を推進するとともに名古屋大学のアクティビティを維持するため、海外から優秀な学生を集めること、英語教育に力を入れ、消極的だといわれている名大生を海外



挨拶する寛支部長



総会の様子

に送り出すことなど、大学改革や学生の意識改革に対する思いが力強く語られました。また、本年度本学が主管校として開催した7大戦の戦績や男女ともに全日本大学駅伝に出場し、特に男子は、国立大学から唯一の出場校であったことなど、学生の活躍ぶりが紹介されました。

続いて、上田 博地球水循環研究センター長から「異常気象を考える」と題し、異常気象現象に関する科学的理解と研究の現状、異常気象にどう備えたらよいかについて講演いただきました。参加者の質問からも、身近で起きる異常気象への関心の高さをうかがうことができました。

総会終了後の懇親会では、近況報告や卒業部局毎に総長を囲んでの記念撮影が行われるなど、会は和やかなうちに終了しました。

名大応化会 関西支部

名大応化会 関西支部では1年に一度、会報誌「名大応化会関西支部だより」を会員向けに発行しております。今回は、全学同窓会関西支部 筧支部長の発案で企画されました「ホームカミングデイバスツアー」に関しての記事が投稿されております。早朝に集合し、16時には帰路に着くという弾丸ツアーでしたが、車中・会場における賑やかさが伝わってきます。ご興味のある方は、下記までご連絡ください。

■連絡先

滋賀県蒲生郡日野町大窪571
名大応化会関西支部事務局 伴 祐郎
TEL/FAX : 0748-26-6510
E-mail : sukeoban@leto.eonet.ne.jp



会報誌「名大応化会関西支部だより」

中部電力 東山会

中部電力「東山会」は、名古屋大学の卒業生である中部電力の現役職員で組織されています。現在、会員は約400名で、毎年総会と忘年会を開催し、会員相互の交誼・親睦を図っています。

平成22年12月10日（金）夕刻より名古屋市東区の第二富士ホテルにて開催した忘年会には、来賓に名古屋大学の杉山理事をお迎えし、会員120余名が出席しました。同じ会社といっても、さまざまな部門や職種の方、幅広い年齢層の方が集まる機会はなかなか貴重であり、遠方の勤務地からお越しいただいた方もいて、いろいろな情報交換や近況確認の場になるとともに、人と人の輪が感じられるひと時となりました。

例年、忘年会には来年度入社予定の学生を招待しており、今年も一人ずつ入社にあたっての抱負を語ってもらいました。緊張と照れが入り混じっていましたが、厳しい就職戦線を戦い抜いた若者としての元気よさと屈託のない笑顔がとて印象的な時間となりました。

会は、最後に全員で第八高等学校寮歌を歌い、今年の反省を踏まえ、けじめをつけて来年に向かう意気込みが漂うなかで、盛会のうちに終了しました。

中部電力東山会は、今後も、大勢の会員が参加し、満足していただけるよう改善をしつつ、交流の場としてますます発展していけるよう、活動していきたいと思っています。



杉山理事を囲んで

法学部 二の丸会

二の丸会が開催される

平成22年9月1日（水）18:30からKKR ホテルにて名古屋市役所における名大法学部の卒業生の同窓会である「二の丸会」が開催されました。大学からは佐分副総長、鮎京法学部長、市橋教授、中野（富）准教授の4名が出席しました。

現在名古屋市役所には、法学部の同窓生が約410名在籍しており、今回はうち47名の出席者がありました。

会はず二の丸会会長の入倉憲二総務局長（法学部 S49年卒）の開会の挨拶、その後来賓として鮎京法学部長、佐分副総長からの挨拶及び大学の近況についての説明、市橋教授、中野准教授からの挨拶があり、出席の同窓生は説明に熱心に耳を傾けていました。

鮎京法学部長の音頭での乾杯の後、懇親会に移りました。懇親会では、今年入庁した8名（全体13名）が順番に「名古屋市役所に入庁した感想」をユーモアを交えて述べ、和やかな雰囲気の中で会は進行しました。予定された2時間があったという間に過ぎ、次期会長に伊藤彰教育長（法学部 S51年卒）を選出して閉会となりました。

同窓生は、鮎京法学部長から法学部創立60周年の行事をはじめとする大学の近況を聞き、母校への関心が一段と深まったようです。



「二の丸会」懇親会の様子

理学部 同期会

理学部同期会（1958年入学）を開催

～益川敏英君のノーベル賞受賞を祝しつつ～

私たちは1958年に入学しましたが、当時教養部は滝子にあり、GとHの2クラスで授業を受けました。2年生のときに伊勢湾台風、3年生のときは安保闘争の経験もりましたが、卒業以来およそ50年の歳月が過ぎました。2008年秋に同期の益川敏英君がノーベル物理学賞を受賞しましたので、遅ればせながらそのお祝いも兼ねて、昨年12月6日（月）、学内のレストラン「花の木」で同期会を持ちました。同時に入学した86名のうち、すでに10名近くが鬼籍に入ってしまったが、連絡先の判明した68名に案内を出し、34名が参加しました。

長谷部勝也君の乾杯の音頭に続いて、益川君からスピーチをもらいました。ついで野村浩康君（元名大副総長）が往時の思い出を綴った写真入の記録や、大学設置基準の大綱化・教養部廃止・大学院部局化・国立大学法人化などについて語り、小川克郎君（元名大環境学研究科長）が最近の理学部の改革の現状などについて解説しました。

最初のうちは誰だったかなと顔を見合わせながら語る感じでしたが、暫くすると学生時代の風貌が甦ってきて、和気あいあいの楽しい会となりました。予定時間をかなり超えて語り合いましたが、再会を期して別れを告げたのでした。

（文責 中須賀徳行）



集合写真

■益川素粒子宇宙起源研究機構長、小林特別教授及び飯島特別招へい教授が日本学士院新会員として選定される

益川敏英素粒子宇宙起源研究機構長、小林 誠本学特別教授及び飯島澄男本学特別招へい教授が、12月13日(月)、日本学士院新会員として選定されました。

同院は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発達に寄与するため必要な事業を行う機関であり、会員は学術で顕著な功績を修めた科学者から選ばれ、終身任期の国家公務員特別職の身分が付与されます。現在、会員は、人文科学部門で63名、自然科学部門で75名の計138名です。

それぞれの専門及び研究成果は以下のとおりです。

益川機構長

専門：物理学

研究課題：「CP 対称性の破れ」の原因を解明し、提唱した。

小林特別教授

専門：物理学

研究課題：「CP 対称性の破れ」の原因を解明し、理論的に説明した。

飯島特別招へい教授

専門：物質科学

研究課題：結晶中の原子の撮影に成功。また、カーボンナノチューブを発見した。



益川機構長

小林特別教授

飯島特別招へい教授

(名大トピックス No.212より)

■平成22年秋の叙勲受章者決まる —本学関係者4名が喜びの受章—

平成22年秋の叙勲の受章者が発表され、本学関係者では次の方々が受章されました。

[教育研究功労 関係]

瑞宝中綬章

岸 正倫 名誉教授 (情文)

元教養部長

愛知江南学園理事長

元江南女子短期大学長・江南女子短期大学教授

加藤 敏郎 名誉教授 (工)

元岐阜医療技術短期大学客員教授

泉 有亮 名誉教授 (工)

元椋山女学園大学長・椋山女学園大学教授

元椋山女学園理事

[保健衛生・看護功労 関係]

瑞宝単光章

柿本美彩子 元医学部附属病院看護部看護師長

(名大トピックス No.211より)

■同窓会行事カレンダー

「間違っていない名大グッツー新学期。」のお知らせ

間違っていない名大グッツー新学期。

4月5日 [火] -15日 [金] 10時-18時 (最終日のみ17時まで)

名古屋大学 教養教育院 プロジェクトギャラリー 「clas」

<http://www.vision.ss.is.nagoya-u.ac.jp/clas/>

学生の視点から「名大らしさ」を学内外に発信する新しい大学グッツの提案・展示を行う予定です。

皆様に足をお運び頂けましたら幸いです。

(本事業は同窓会支援事業の一環で実施されます)

主 催：名古屋大学デザインリテラシー研究会

連絡先：名大グッツ研究会代表 原俊亮

(hara.shunsuke@h.mbox.nagoya-u.ac.jp)

名古屋大学遠州会第16回同窓会のお知らせ

今回は、名古屋大学特別教授 益川敏英先生をお招きして、『現代社会と科学』と題して講演いただきます。

日時：6月11日 (土) 15時30分～17時15分

場所：アクトシティ浜松コンgresセンター41会議室

問い合わせ先：原田憲道 (遠州会事務局長)

E-mail: enshuhrd@yahoo.co.jp

名古屋大学遠州会は、遠州地域に在住、在勤の名古屋大学卒業生等の交流、親睦等を目的として活動しています。みなさまの参加、入会をお待ちしています。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

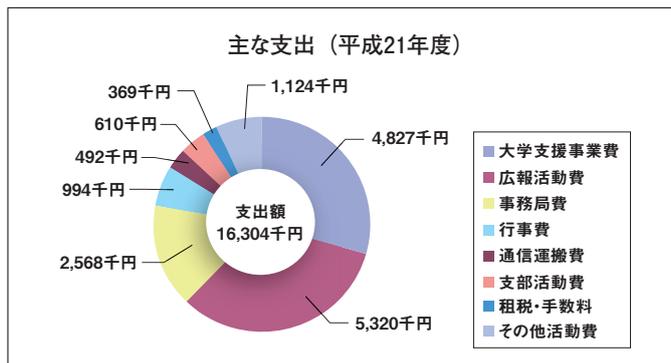
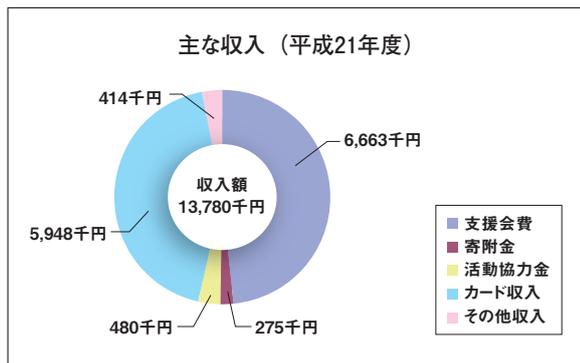
○支援会費 Supporting Fee 支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○支払い方法 郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方に、預金口座振替依頼書をお送りします。関係書類をご入用の場合は、同窓会事務局にご連絡ください。

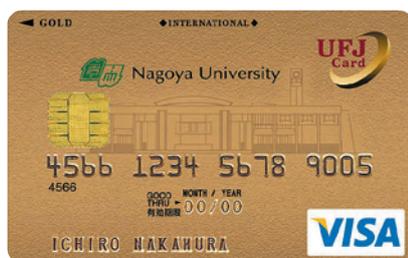
支援会費、活動協力金等は、大学支援事業や広報誌作成等の設立理念に合致する活動に使わせていただきました。



「名古屋大学カード」でつながる大学支援

年会費永年無料! 家族会員 (1名) も無料です。

加入者は、6,000名を超えています!!



カード利用代金の一部が全学同窓会に還元され、名古屋大学の学生活動、就職支援事業等を支援しています。

Web でスピード入会 <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

名簿商法にご注意下さい!

名古屋大学、全学同窓会、支部及び部局同窓会とは関係のない組織から、「卒業生名簿」の作成や頒布に関する代金を請求される場合があります。不審な場合は、先方についてよくご確認の上、慎重にご対応下さい。

編集後記

今回は益川先生と海外支部のみなさまとのふれあいトークの様子、再生をめざす応援団の挑戦に関する記事の特集しました。おのずから今の大学生の抱える問題点が浮かび上がってきたように思います。その一方で海外からの期待も多く、地道に努力する学生も育っています。全学同窓会は、これからも未来へ向かう名古屋大学を支援していきます。今後も皆様のご支援を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.15 平成 23 (2011) 年 3 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集: 名古屋大学全学同窓会広報委員会